

特定健診の電子的なデータ標準様式  
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）  
仕様説明書  
**Version 1**

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

目次

1.	はじめに	1
1.1	目的	1
1.2	参考資料	1
2.	概要	3
2.1	本文書の位置付け	3
	<u>本文書と既存の仕様説明書との相違点</u>	3
2.2	記載内容の優先度	4
2.3	標準フォーマットの基本的な方針	4
2.3.1	1健診結果1ファイル	4
2.3.2	本標準フォーマットが対象とする健診情報	4
2.3.3	HL7CDA規格との関係	4
3.	特定健診情報ファイル仕様	8
3.1	全体構成の概要	8
3.2	ヘッダ部	9
3.2.1	名前空間	9
3.2.2	CDA管理情報	10
3.2.3	健診管理情報	10
3.2.3.1	受診者情報	13
3.2.3.2	ファイル作成機関の情報	18
3.2.3.3	ファイル作成管理責任機関情報	20
3.2.3.4	受診券番号	20
3.2.3.5	健診実施情報	20
3.3	ボディ部	21
4.	ボキャブラリ仕様	22
5.	OID表	22
6.	「保険者から支払基金への実績報告用ファイル」を支払基金が加工して本仕様に準拠させるのに必要な加工箇所の例	23

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 修正履歴

日付	版	修正内容
2020.03.31	V1.0	初版

### 本仕様書の適用範囲

本仕様説明書（Version1）は、令和2年度分の法定報告（令和3年11月1日までに実施する法定報告）に係る特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）から適用される。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

# 特定健診情報ファイル （支払基金から国・国保から支払基金への報告用） 仕様説明書

## 1. はじめに

### 1.1 目的

本文書の目的は、2008年度から実施している特定健診の健診結果情報を、支払基金から国へ、もしくは国保から支払基金へ、電子的に提出（報告）する際に使用する、電子的なデータ標準様式の定義について詳細に説明することである。

支払基金、もしくは国保は、本仕様に準拠したデータを作成し、提出を行わねばならない。

### 1.2 参考資料

下記の表は、この文書で参照している標準仕様及び研究報告書等の名称、バージョン、並びにその説明の一覧である。

本文書での仕様等の引用名称	バージョン	説明
厚生労働省 特定健診プログラム	※	標準的な健診・保健指導プログラム
厚生労働省 特定健診プログラム手引書	※	「特定健康診査・特定保健指導の円滑な実施に向けた手引き」
HL7 Version 3	Normative 2005	HL7 Version 3 の 2005 年度 規範版パッケージ。CDA Release 2.0 の規格書が含まれる。
日本 HL7 協会 診療情報提供書	1.0	日本 HL7 協会が策定した、CDA R2 規格をベースとした診療情報提供書の規格。 <a href="http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-001.pdf">http://www.hl7.jp/intro/std/HL7J-CDA-001.pdf</a>
HL7 CRS	final draft	米国 HL7 協会が策定中の診療文書に関する実装ガイド。 Implementation Guide for CDA Release 2 – Level 1 and 2 – Care Record Summary (US realm), HL7, Inc., Final Text, June 8, 2006
XML	1.1	Extensible Markup Language <a href="http://www.w3.org/TR/2006/REC-xml11-20060816/">http://www.w3.org/TR/2006/REC-xml11-20060816/</a>
XPath	1.0	<a href="http://www.w3.org/TR/xpath">http://www.w3.org/TR/xpath</a>
電子レセプト仕様書		「電子レセプトの作成手引き（医科）」社会保険診療報酬支払基金レセプト電算処理システム電子レセプト作成手引き  <a href="http://www.ssk.or.jp/seikyushiharai/rezept/iryokikan/iryokikan_02.files/jiki_i01.pdf">http://www.ssk.or.jp/seikyushiharai/rezept/iryokikan/iryokikan_02.files/jiki_i01.pdf</a>
特定健診実績報告（保険者→支払基金）仕様説明書	3.1	「特定健診情報ファイル（支払基金への実績報告用）仕様説明書」。本書と対となる文書で、保険者から支払基金へ特定健診実績を提出する際の仕様について解説した文書。
健診情報ファイル仕様説明書（健診機関→保険者）	3.1	厚生労働省通知「令和2年度以降における特定健康診査及び特定保健指導の実施並びに健診実施機関等により作成された記録の取扱いについて（令和2年3月31日健発 0331 第7号、保発 0331 第2号）」とともに公表されている、「特定健康診査・特定保健指導の電子的な標準様式の仕様に関する資

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

		料」のうち、「特定健診情報ファイル仕様説明書」
--	--	-------------------------

※厚生労働省 HP 「特定健診・特定保健指導について」

（<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161103.html>）に公表されている最新版を参照すること。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

## 2. 概要

### 2.1 本文書の位置付け

本文書は、厚生労働省通知「保険者が社会保険診療報酬支払基金に提出する令和2年度以降に実施した特定健康診査等の実施状況に関する結果について（令和2年3月31日保発0331第4号）」において報告対象とされている「提出対象となる特定健診・特定保健指導情報ファイル」のうち「特定健康診査の実施状況に関する結果」について、支払基金から国に対して提出する際、および国保から支払基金へ提出する際の電子的なデータ標準様式（以下では特定健診標準フォーマット、または単に標準フォーマットと記載する）を定義するものである。

標準フォーマットはXML規格にもとづいている。XML規格はデータ中に<aaa>...</aaa>のようなタグと呼ばれるマークを埋め込むことにより、データの意味付けと構造に関する情報をデータと一緒に送信できるようにした言語規格で、インターネット上でのデータのやり取りや、コンピュータシステム間でのデータ交換、データベースからのデータの読み書きの際など広範に使用されるようになっている。XML規格をある目的で使用する場合には、どのようなデータにどのようなタグをつけるか、またデータ同士をどのように階層化するかについて、その目的ごとに取り決める必要がある。その取り決めに関する規則はXMLスキーマと呼ばれる方式で記述されたファイルで記述する。DTDと呼ばれる方式で記述する方法もあるが、最近はXMLスキーマによる記述のほうが増えている。

本標準フォーマットは、XMLスキーマで詳細が定義されており、ホームページに公開されている<sup>1</sup>。DTD形式による定義は提供されていない。本書はそのXMLスキーマの説明書としての位置付けであると同時に、XMLスキーマでは記述しつくせない細かい制約事項を記載している。従って、本書は別途公開されている対応するXMLスキーマファイルと併せて使用するものであり、それぞれ単独では意味をなさない。

#### 本文書と既存の仕様説明書との相違点

本文書で説明される標準フォーマットは、保険者から支払基金に特定健診の結果情報を報告するための仕様と基本的には同一である。仕様上の異なる部分は、個人を特定できる項目等の不要な項目についての仕様の削除だけであり、新たな仕様の追加はない。ただし、仕様の削除のうちには、これまで必須とされていた情報が、存在してはいけない情報となった場合が含まれることに注意が必要である。

また本文書として「特定健診実績報告仕様説明書（保険者→支払基金）」と異なる部分は、1）上記の仕様上の異なる部分を反映させている点、2）国への報告としての位置づけから明らかに説明が不要となる部分の削除、の2点である。

なお、本書に対応するXMLスキーマファイルは、「健診機関健診情報ファイル仕様説明書（健診機関→保険者）」および「特定健診実績報告仕様説明書（保険者→支払基金）」とともに公開されているXMLスキーマファイルと完全に同一であるため重複して公表をせず、後者を参照するものとする。提出不要となった特定健診情報項目を本仕様で削除したにもかかわらず、対応するXMLスキーマファイルに変更の必要がない理由は、これらの削除項目に対応する要素または属性はあらかじめ省略可能と定義されていたからである。

なお、「保険者から支払基金への実績報告ファイル」を支払基金が加工して本仕様に準拠させるのに必要な加工箇所の例を本仕様説明書の末尾に提示してあるので参考にされたい。

<sup>1</sup><http://www.mhlw.go.jp/bunya/shakaihosho/iryouseido01/info02a.html>

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

## 2.2 記載内容の優先度

この文書の記載内容と前項の厚生労働省通知との記述に相違がある場合には、前項の厚生労働省通知との記述を優先するものとする。

本文書と対をなして公表されている XML スキーマファイルでは、XML 要素や属性の出現多重度や選択性について、本文書での記載よりも緩い記述（制約条件が広い記述）になっていることがある。このような場合には、本文書に記載されている記述が優先するものとする。たとえば XML スキーマでは 1 回以上何度出現してもよいとなっている要素について、本文書では 1 回だけ必ず出現するものと記載しているケースでは、本文書に従うものとし、当該要素は 1 回だけ必ず出現しなければならないと 2 回以上出現してはならない。同様にたとえば XML スキーマでは出現してもしなくても良い（出現がオプション）とされている属性や要素について、本文書では出現してもよいことが明示的に記載されていないケースでは、本文書に従うものとし、当該属性や当該要素は出現してはならない。

## 2.3 標準フォーマットの基本的な方針

### 2.3.1 1 健診結果 1 ファイル

本標準フォーマットは、1 人の受診者の 1 回の特定健診の結果情報を、報告に際して必要となるヘッダー情報（健診機関に関する情報や日付、受診者を識別するための情報など）を含めた 1 つの XML 形式で格納し、1 個の電子ファイル（Windows や UNIX などのコンピュータオペレーティングシステムでひとつの電子ファイルとして扱われるファイル単位）とするものである。

1 人の受診者の 1 回の特定健診の結果情報ごとに 1 電子ファイルとし、複数回もしくは複数受診者の結果はその数だけの電子ファイルを別々に生成する方針をとっている。従って、1 電子ファイルに、複数回もしくは複数受診者の健診結果を格納することはできない。

### 2.3.2 本標準フォーマットが対象とする健診情報

本標準フォーマットは、厚生労働省通知「保険者が社会保険診療報酬支払基金に提出する令和 2 年度以降に実施した特定健康診査等の実施状況に関する結果について（令和 2 年 3 月 31 日 保発 0331 第 4 号）」で提出対象とされている「提出対象となる特定健診・特定保健指導情報ファイル」のうち「特定健康診査の実施状況に関する結果」を格納することを目的としている。

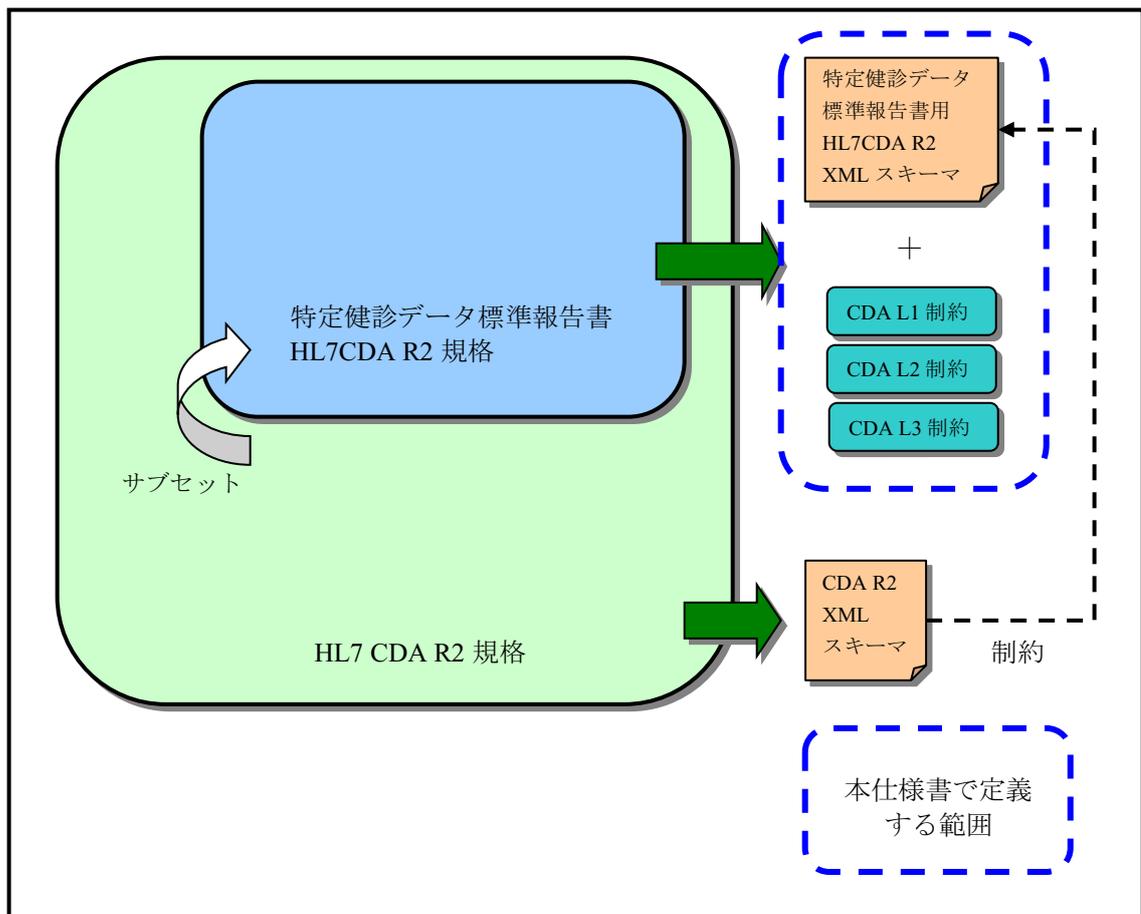
### 2.3.3 HL7 CDA 規格との関係

本標準フォーマットは、HL7 CDA Release 2（以下 CDA R2）規格<sup>2</sup>に完全準拠するものとし、本標準フォーマット仕様は、HL7 CDA 規格で定義される XML スキーマに対して特定健診固有のさらなる制約を課すことで実現されている。各種制約のなかで、HL7 CDA R2 仕様に対して、その XML 要素あるいは属性の多重度に対して適用される制約<sup>3</sup>や、コード値を限定するような制約については、HL7 CDA R2 仕様の XML スキーマとなる「特定健診情報ファイル XML スキーマ」で定義され、その XML スキーマファイルが本説明書とは別に公開される。本説明書で解説される XML スキーマで妥当であると検証された XML インスタンス（XML ファイル）は、HL7 CDA R2 XML スキーマに対しても妥当であることが必ず保証される。

<sup>2</sup> ANSI/HL7 CDA R2-2005 4/21/2005 版

<sup>3</sup>例えば CDA R2 仕様においてある要素の多重度が"0..\*"であるものを"1..1"に制約するといった制約。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31



特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

本仕様書では、XML タグ仕様を以下のような表形式で示す。ここで掲げる表と図は XML タグ仕様の読み方を示すために記載した架空のものであり、本仕様とは無関係のものとして見る必要がある。

XML-No	XPath	説明	多重度	選択性
3.2.1	/ClinicalDocument/component/structuredBody/component/section		0..*	O
3.2.1.1	code	セクションコード。	1..1	M
3.2.1.1.1	@code	セクションコードのニーモニック。	1..1	M
3.2.1.1.2	@codeSystem	セクションコードのコード体系を識別する OID。	1..1	M
3.2.1.1.3	@codeSystemVersion	セクションコードのコード体系バージョン。	0..1	O
3.2.1.2	title	セクションタイトル。	1..1	M
3.2.1.2.1	text()	セクションタイトルを示す文字列。	1..1	M

「XPath」の列に示される”/ClinicalDocument”から開始される文字列は、XML のルート要素から、この表で示される XML 要素までのパスを XPath により記述したものである。例えば上の表中の XPath “/ClinicalDocument/component/structuredBody/component/section” は、以下の XML の青枠で囲まれた section 要素の仕様を記述していることを示す。

```

<ClinicalDocument>
  <component>
    <structuredBody>
      <component>
        <section>
          <code code="ABCDE" codeSystem="123.456.7890.1" />
          <title>検体検査等</title>
        </section>
        ...
      </component>
    </structuredBody>
  </component>
</ClinicalDocument>

```

表中には XPath で示される要素の子要素を、表の各行に順に記述する。このとき、code や title などインデントされずに灰色の網掛けで表現される項目は、それが XML 要素であることを意味する。一方、@code や @codeSystem のようにインデントされ @ をつけて示される項目は、それが XML 属性であることを意味する。text() と示される項目は、XML テキスト内容を表す。

「多重度」は、指定された項目の出現数の最小値と最大値を”..”の両端に示す形で表現する。最大値に制限が無い場合は、”\*” (アスタリスク) によって表現される。例えば、上の例で、section 要素に付けられた”0..\*”という多重度は、指定された section 要素が XML 中に 0 個以上複数出現し、その出現数の最大値には制限がないことを示す。一方 title 要素は、section 要素が出現する際には必ず 1 つ出現することを示す。多重度が 0 とだけ記載されている場合には、既存の「特定健診実績報告仕様説明書（保険者→支払基金）」では要素または属性が存在していたが、本仕様では出現しないこととなった（使用しないこととなった）ことを明示しており、この場合当該要素または属性は出現してはならない。この場合次項の選択性は×となっている。

「選択性（オプションナリティ）」は、M (Mandatory) または O (Optional) または×（出現しては

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

ならない) のいずれかの値で表現される。

**M**は、必須値であり、その要素または属性は必ず1個以上出現し、かつ空文字列でない値が必ず格納されなければならない。

**O**はオプション項目（任意出現項目）であり、記述すべき値が存在しない場合やある条件下では、省略する項目である。また記述すべき値がない（または記述すべき値が空文字列）場合には、その要素自体または属性自体を省略しなければならない。要素または属性を出現させて値は空文字列にすることは許可されない。**M**が指定されている要素の多重度の最小値は必ず1以上となる。

**X**は、既存の「特定健診実績報告仕様説明書（保険者→支払基金）」では要素または属性が存在していたが、本仕様では出現しないこととなった（使用しないこととなった）ことを明示しており、この場合当該要素または属性は出現してはならない。**X**が指定されている項目の多重度は必ず0である。

表中でXML要素の階層の上位にある項目に対して下位に位置する項目の多重度や選択性を指定する場合、下位の項目の多重度および選択性は、上位の項目が出現する場合での制約を記述する。例えば、上の例で、**section**要素の選択性が**O**（Optional）であるのに、その下位の**code**要素の選択性が**M**（Mandatory）であるのは、**section**要素が存在する状況での**code**要素の選択性を示しており、**section**要素が存在するときには**code**要素が必ず出現しなければならないことを意味する。

上記の表で最初の列XML-NOは、本仕様書内で引用に便利なようにつけた番号で、すべての表を通じた一意の通し番号になっており、XML仕様Noとして引用される。

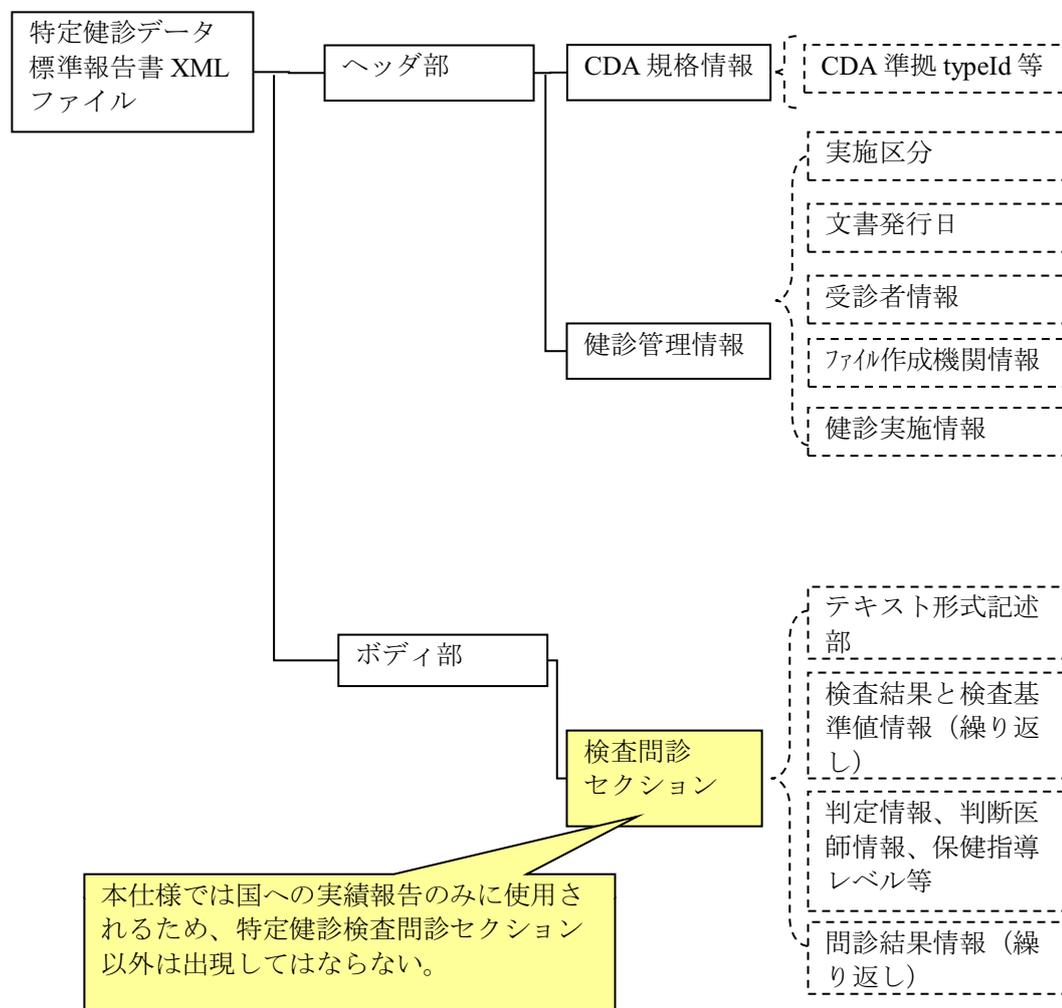
説明文中に最大バイト数の記載がある場合には、特に条件記載がない限り半角文字を1バイト、全角文字（シフトJIS系文字における2バイト文字）を2バイトを換算した場合の文字列バイト長を指すものとする。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 3. 特定健診情報ファイル仕様

#### 3.1 全体構成の概要

本標準フォーマットにもとづく XML ファイルは、ヘッダ部とボディ部からなる（下図）。



ヘッダ部には、CDA 規格上必要となるメッセージ種別など CDA 規格情報、記録されているイベント（健診、指導など）に関する実施区分や文書発行日（特定健診情報ファイルの作成日）情報、作成者情報、記録対象者（受診者）情報、健診実施日などの健診管理情報から構成される。ボディ部には、健診結果の情報が、一部は人間可読なテキスト形式で記述されるとともに、コンピュータ処理を可能とするための形式で構造化されて記述される。健診結果は、特定健診検査問診セクションだけからなる。<sup>4</sup>

<sup>4</sup>健診情報ファイル仕様説明書(健診機関→保険者)では、特定健診検査問診セクション以外に追加のセクションの配置が認められているが、本仕様では国への実績報告のみに使用されるため、特定健診検査問診セクション以外は出現してはならない。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

## 3.2 ヘッダ部

### 3.2.1 名前空間

本仕様書で定義される XML インスタンスの名前空間は「urn:hl7-org:v3」とし、これをデフォルト名前空間として指定する。

また、本仕様書で定義される XML インスタンスでは、「http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance」という URI で識別される XML スキーマインスタンスの名前空間を使用する。

本仕様のスキーマファイルは「hc08\_V08.xsd」というファイル名のファイルにより別途提供される。ここでこのファイル名中の V08 は version 番号であり、今後スキーマファイルが一部修正された場合においても、リリースされたスキーマファイル名のバージョン番号部分を V08 に名前を変更して使用するものとする。なお、将来の制度の改訂などにより、部分修正に留まらない大きな変更が加えられた場合には、これによらない場合がある。

下記は XML インスタンスの実例であり、本仕様に基づくすべての XML インスタンスは、スキーマファイル名の version 番号部分を除きこの部分を変更してはならない。

補足説明 1：本仕様でファイルを生成する側は、文字コードは UTF-8 を使用するものとする。

補足説明 2：UTF-8 文字コードのファイルをコンピュータプログラムにより生成する場合に、ファイルの冒頭の（通常のテキスト表示では見えない最初の）3 バイトに Byte Order Mark

（BOM）と呼ばれる 3 バイト EF BB BF (16 進) をつけるスタイルと、つけないスタイルの両方が世の中に存在する。本仕様でファイルを生成する側は、この BOM と呼ばれる 3 バイトを付与しないものとする。ソフトウェア開発者は、自分の使用する XML ファイル生成機能が自動的に BOM を付与するソフトかどうかを調べ、自動付与するスタイルのソフトウェアの場合には、生成されたファイルの第 1 バイト目からの先頭 3 バイトを削除することが必要である。どちらのソフトウェアであるかを調査するためには、テキスト表示ソフトでは通常表示されないの、冒頭の数バイトをプログラムで確認するなりして確認することが必要である。

一方、本仕様で生成されたファイルを受信する側では、生成側が誤って BOM を付けたファイルを生成している可能性を想定し、BOM の有無にかかわらず正しく処理できるようにすることが必要である。

補足説明 3：スキーマファイル名の version 番号部分は V08 で統一する。下記の例で示すように、hc08\_V08.xsd とするものとする。今後スキーマファイルが一部修正された場合においても、リリースされたスキーマファイル名を下図のようにバージョン番号部分を V08 に名前を変更して使用するものとする。なお、将来の制度の改訂などにより、部分修正に留まらない大きな変更が加えられた場合には、これによらない場合がある。

なお、オペレーティングシステムによる違いの影響を排除するため、スキーマファイル名、その相対パス名の英大文字小文字の違いを意識するものとし、以下の通りとする。

スキーマファイル名を含む相対パス名： ../XSD/hc08\_V08.xsd

注：ピリオド 2 個で始まっていることから分かるように、スキーマファイルが格納されるフォルダ XSD は、本 XML ファイルが格納されるフォルダ（ディレクトリ）の兄弟フォルダである。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<ClinicalDocument xmlns="urn:hl7-org:v3"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="urn:hl7-org:v3 ../XSD/hc08_V08.xsd">
  ...
</ClinicalDocument>
```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 3.2.2 CDA 管理情報

特定健診情報ファイルのトップレベルの XML 要素である **ClinicalDocument** の最初の 2 つの要素は、HL7CDA に準拠する上で必要な情報であり、表 1 に示される 2 要素が含まれる。

これは、保険者から支払基金への実績報告用ファイルと同一である。

表 1 ヘッダ部の CDA 管理情報

No	XPath	説明	厚労省公表資料との対応	多重度	選択性
0	/ClinicalDocument			1..1	M
1	typeId	タイプ ID。準拠している CDA R2 仕様を識別する。		1..1	M
1.1	@root	HL7 に登録されている成果物の名前空間 OID となる「2.16.840.1.113883.1.3」を設定。		1..1	M
1.2	@extension	CDA R2 仕様のバージョンを一意に識別する成果物識別子である「POCD_HD000040」を設定。		1..1	M
2	Id	生成されたファイルをユニークに識別する ID。		1..1	M
2.1	@nullFlavor	未使用としヌル値を意味する“NI”を設定。		1..1	M

### 3.2.3 健診管理情報

CDA 管理情報の 2 つの要素につづく要素は、健診管理情報であり、表 2 に示される項目からなる。

ここでは、保険者から支払基金への実績報告用ファイルに対して次の加工を行うことが必要である。

- 1) 表 2 XML 仕様 No.4.1 (ファイル作成日) : 支払基金が本ファイルを作成した日付に上書き設定。
- 2) 同仕様 No.6 (受診者情報) : 加工必要。詳細は 3.2.3.1 節参照。
- 3) 同 No.7 (ファイル作成機関情報) : 加工不要。
- 4) 同 No.8 (ファイル作成管理責任機関情報) : 加工不要。
- 6) 同 No.10 (健診実施情報) : 加工必要。詳細は 3.2.3.5 節参照。

表 2 ヘッダ部の健診管理情報

No	XPath	説明	厚労省公表資料との対応	多重度	選択性
0	/ClinicalDocument			1..1	M
3	code	報告区分を表すコードを設定。このファイルが作成された目的や作成タイミングなどの情報を格納するために使用される。		1..1	M
3.1	@code	報告区分コード 2 桁 (上位 1 桁が特定健診受診情報の実施区分に対応する)  10: 特定健診情報	1 桁目 (10 の位) は実施区分コード。	1..1	M
3.2	@codeSystem	コードのコード体系を識別する OID。		1..1	M

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

		「1.2.392.200119.6.1001」を設定。		
3.3	@displayName	使用しない。存在しなくてもよい。	0..1	O
4	effectiveTime	本ファイルのオフィシャルなファイル作成日（実際のファイル作成日と異なることもあり）。この日付をもって本データを提出したことから取り扱う日。 ※健診機関より受領したファイル中に格納されている本要素の日付を書き換える必要がある。	1..1	M
4.1	@value	「YYYYMMDD」。	1..1	M
5	confidentialityCode	守秘レベルコード。HL7 ポキャブラリドメイン Confidentiality の値を使用。	1..1	M
5.1	@code	守秘レベルコード。通常時の守秘レベルを表す「N」を設定。	1..1	M
5.2	@codeSystem	XML ファイルサイズを小さくするため当面使用しなくてよいが、使用する場合には守秘レベルコードのコード体系を識別する OID。「2.16.840.1.113883.5.25」固定。	0..1	O
6	recordTarget	受診者情報。構造を含め詳細は、3.2.3.1 節に記載。	1..1	M
7	author	本ファイルを作成し提出する保険者側の情報（通常は送付元に相当する）。構造を含め詳細は、3.2.3.2 節に記載。	1..1	M
8	custodian	本ファイル作成管理責任機関情報。本仕様では使用しないが HL7CDA 規格上必須であるため、3.2.3.3 節のように記述するものとする。	1..1	M
9	participant	受診者の受診券に関する情報。3.2.3.4 節に記載。本仕様では出現させない。	0	X
10	documentationOf	健診実施情報。詳細は、3.2.3.5 節に記載。	1..1	M

ヘッダ部の XML サンプルを以下に示す。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<ClinicalDocument xmlns="urn:hl7-org:v3"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="urn:hl7-org:v3 ../XSD/hc08_V08.xsd">
  <typeId root="2.16.840.1.113883.1.3" extension="POCD_HD000040" />
  <id nullFlavor="NI"/>
  <!--報告区分 10=特定健診情報の報告-->
  <code code="10" codeSystem="1.2.392.200119.6.1001" />
  <!-- 文書発行日（西暦） -->
  <effectiveTime value="20200401" />
  <confidentialityCode code="N" />
  <!-- 受診者情報 -->
  <recordTarget>...</recordTarget>
  <!-- ファイル作成機関情報 -->
  <author>...</author>
  <!-- ファイル作成管理責任機関情報 -->
  <custodian>...</custodian>
  <!-- 健診実施情報 -->
  <documentationOf>...</documentationOf>
    <component>...</component>
    ...
</ClinicalDocument>

```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 3.2.3.1 受診者情報

**ClinicalDocument** の子要素である **recordTarget** 要素で受診者情報を記述する。健診データ項目一覧表のうち、表 3 に示す項目がこの要素で表現される。

保険者番号、被保険者証等記号、被保険者証等番号、被保険者証等枝番、受診者住所、受診者カナ氏名は、実績報告用ファイルには格納しない。また整理用番号 1～5 は必須と明示された。

ここでは、支払基金が保険者から受領するファイルに対して次の加工を行うことが必要である。

1) 表 4 XML 仕様 No. 6.2 : 新たに要素を追加。厚生労働省の付番方法により付番した整理用番号 1 を設定。

2) 同 No. 6.3 : 新たに要素を追加。厚生労働省の付番方法により付番した整理用番号 2 を設定。

もしすでに本要素 (patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.203」または「1.2.392.200119.6.299」であることで判定) が存在する場合には、厚生労働省の付番方法により付番した整理用番号 2 を上書き設定し、その patientRole/id/@root に「1.2.392.200119.6.203」を上書き設定。

3) 同 No. 6.4 : 新たに要素を追加。厚生労働省の付番方法により付番した整理用番号 3 を設定。

4) 同 No. 6.5 : 新たに要素を追加。厚生労働省の付番方法により付番した整理用番号 4 を設定。

5) 同 No. 6.6 : 新たに要素を追加。厚生労働省の付番方法により付番した整理用番号 5 を設定

6) 同 No. 6.8～6.11 : 要素を削除。

保険者番号の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.101」であることで判定し削除。

被保険者証等記号の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.204」であることで判定し削除。

被保険者証等番号の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.205」であることで判定し削除。

被保険者証等枝番の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.211」であることで判定し削除。

5) 同 No. 6.12.1 : 受診者住所の値だけを (patientRole/addr 要素は残したまま) 削除。

6) 同 No. 6.15 : 受診者の氏名の要素を削除。

表 3 受診者情報に含まれる項目

項目名	XML 仕様 No	XPath
整理用番号 1	6.2.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id/@extension
整理用番号 2	6.3.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id/@extension
整理用番号 3	6.4.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id/@extension
整理用番号 4	6.5.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id/@extension
整理用番号 5	6.6.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id/@extension
資格区分	6.7.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/id/@extension
受診者の郵便番号	6.13.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/addr/postalCode/text()
受診者の性別	6.16.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/patient/administrativeGenderCode/@code
受診者の生年月日	6.17.1	/ClinicalDocument/recordTarget/patientRole/patient/birthTime/@value

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

受診者情報の XML 仕様の詳細を表 4 に示す。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

表 4 受診者情報 XML 仕様

No	XPath	説明	多重度	選択性
6	/ClinicalDocument/recordTarget		1..1	M
6.1	patientRole	受診者情報	1..1	M
6.2	patientRole/id	整理用番号1 ※1	1..1	M
6.2.1	@extension	「整理用番号1」に対応する文字列。	1..1	M
6.2.2	@root	整理用番号1の OID。「1.2.392.200119.6.202」を設定。	1..1	M
6.3	patientRole/id	整理用番号2 ※1	1..1	M
6.3.1	@extension	「整理用番号2」に対応する文字列。	1..1	M
6.3.2	@root	整理用番号2の OID。「1.2.392.200119.6.203」を設定。	1..1	M
6.4	patientRole/id	整理用番号3 ※1	1..1	M
6.4.1	@extension	「整理用番号3」に対応する文字列。	1..1	M
6.4.2	@root	整理用番号3の OID。「1.2.392.200119.6.900」を設定。	1..1	M
6.5	patientRole/id	整理用番号4 ※1	1..1	M
6.5.1	@extension	「整理用番号4」に対応する文字列。	1..1	M
6.5.2	@root	整理用番号4の OID。「1.2.392.200119.6.18010」を設定。	1..1	M
6.6	patientRole/id	整理用番号5 ※1	1..1	M
6.6.1	@extension	「整理用番号5」に対応する文字列。	1..1	M
6.6.2	@root	整理用番号5の OID。「1.2.392.200119.6.18020」を設定。	1..1	M
6.7	patientRole/id	資格区分 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 保険者より国へ報告する際に利用するものであり、健診機関からの出力データには出現しない</li> <li>➤ 国保においては、値が一意に定まるため、出現させなくても良い。</li> </ul>	0..1	O
6.7.1	@extension	「資格区分」コード文字列。数字1桁固定長とする。 ポキャブラリは、4.11 資格区分コードを参照	1..1	M
6.7.2	@root	資格区分の OID。「1.2.392.200119.6.206」を設定。	1..1	M

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

6.8	patientRole/id	<u>保険者番号 要素が出現しない</u> 存在する本要素を削除する場合には、保険者番号の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.101」であることで判定する。	0	X
6.9	patientRole/id	<u>被保険者証等記号 要素が出現しない</u> 存在する本要素を削除する場合には、被保険者証等記号の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.204」であることで判定する。	0	X
6.10	patientRole/id	<u>被保険者証等番号 要素が出現しない</u> 存在する本要素を削除する場合には、被保険者証等番号の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.205」であることで判定する。	0	X
6.11	patientRole/id	<u>被保険者証等枝番 要素が出現しない</u> 存在する本要素を削除する場合には、被保険者証等枝番の要素であることは、patientRole/id/@root の値が「1.2.392.200119.6.211」であることで判定する。	0	X
6.12	patientRole/addr/	受診者住所情報	1..1	M
6.12.1	text()	<u>「受診者住所」は格納しない。値が出現しない</u>	0	X
6.13	patientRole/addr/postalCode	受診者の郵便番号	1..1	M
6.13.1	text()	「受診者郵便番号」に対応する半角文字列。書式は、「###-####」([0-9]{3}-[0-9]{4})。ハイフンを含む)。8バイト固定。	1..1	M
6.14	patientRole/patient	受診者個人情報	1..1	M
6.15	patientRole/patient/name	<u>受診者の氏名 要素が出現しない</u>	0	X
6.16	patientRole/patient/administrativeGenderCode	「受診者の性別」コード。	1..1	M
6.16.1	@code	受診者の性別コード 男=「1」、女=「2」。	1..1	M
6.16.2	@codeSystem	受診者の性別コードのコード体系を識別する OID。「1.2.392.200119.6.1104」を設定。	0..1	O
6.17	patientRole/patient/birthTime	受診者の生年月日。	1..1	M
6.17.1	@value	「受診者の生年月日」。書式は数字半角文字列で「YYYYMMDD」。	1..1	M

※1 整理用番号1～5は厚労省から配布された匿名化・提供システムで生成される項目である。支払基金が国へ、もしくは国保が支払基金へ、実績報告を行う際は、厚労省から配布された最新の匿名化・提供システムを使用して整理用番号1～5を生成すること。

受診者情報のXMLサンプルを以下に示す（整理用番号1～5は仕様上は64桁であるが、下記サンプルでは便宜上8桁としている）

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

```

<ClinicalDocument>
...
<!-- 受診者情報 -->
<recordTarget>
<patientRole>
<!-- 整理用番号 1 -->
<id extension="12345678" root="1.2.392.200119.6.202" />
<!-- 整理用番号 2 -->
<id extension="98765432" root="1.2.392.200119.6.203" />
<!-- 整理用番号 3 -->
<id extension="56789012" root="1.2.392.200119.6.900" />
<!-- 整理用番号 4 -->
<id extension="34567890" root="1.2.392.200119.6.18010" />
<!-- 整理用番号 5 -->
<id extension="78901234" root="1.2.392.200119.6.18020" />

<!-- 資格区分 -->
<id extension="1" root="1.2.392.200119.6.206" />

<!-- 受診者の郵便番号 -->
<addr>
<postalCode>123-0001</postalCode>
</addr>
<patient>
<!-- 性別コード：男 -->
<administrativeGenderCode code="1" codeSystem="1.2.392.200119.6.1104" />
<!-- 受診者の生年月日（西暦） -->
<birthTime value="19720924" />
</patient>
</patientRole>
</recordTarget>
...
</ClinicalDocument>

```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 3.2.3.2 ファイル作成機関の情報

本ファイル作成機関の情報として、支払基金への提出を行った保険者の情報を格納する。すなわち、保険者から支払基金等への実績報告の該当情報と同一となる。

表 5 ファイル作成機関情報に含まれる項目

項目名	XML 仕様 No	XPath
ファイル作成機関番号	7.5.1	/ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/id/@extension
ファイル作成機関名称	7.6.1	/ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/name/text()
ファイル作成機関電話番号	7.7.1	/ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/telecom/@value
ファイル作成機関住所	7.8.1	/ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/addr/text()
ファイル作成機関郵便番号	7.9.1	/ClinicalDocument/author/assignedAuthor/representedOrganization/addr/postalCode/text()

ファイル作成機関情報の XML 仕様を表 6 に示す。

表 6 作成機関情報 XML 仕様

No	XPath	説明	多重度	選択性
7	/ClinicalDocument/author		1..1	M
7.1	time	ファイル作成日。このファイルの実際の作成日。XML 仕様 No.4 の effectiveTime と通常は同一の値であるが、3 月 31 日付けの報告 (effectiveTime) のファイルを、3 月 29 日に作成(本項目)したことを記録したい場合では、両者を異なる値とすることは可能。受信側で特に利用されることはない。	1..1	M
7.1.1	@value	書式は「YYYYMMDD」	1..1	M
7.2	assignedAuthor	ファイル作成機関情報	1..1	M
7.3	assignedAuthor/id	ファイル作成機関識別子	1..1	M
7.3.1	@nullFlavor	HL7 ポキャブラリドメイン NullFlavor より「NI」を設定。	1..1	M
7.4	assignedAuthor/representedOrganization	ファイル作成機関	1..1	M
7.5	assignedAuthor/representedOrganization/id	ファイル作成機関の番号	1..1	M
7.5.1	@extension	「ファイル作成機関番号」に対応する文字列。8 桁の保険者番号 を設定。	1..1	M
7.5.2	@root	ファイル作成機関のための OID を設定。保険者:「1.2.392.200119.6.101」	1..1	M
7.6	assignedAuthor/representedOrganization/name	ファイル作成機関の名称。	1..1	M
7.6.1	text()	「ファイル作成機関名称」文字列。	1..1	M
7.7	assignedAuthor/representedOrganization/telecom	ファイル作成機関の連絡先情報。	0..1	O
7.7.1	@value	電話番号。「tel :」で始まる文字列で数字だけと	1..1	M

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

		し、ハイフンやカッコなど区切り文字を含まない。 例: "tel:0312345678" 「tel:」の 4 バイトを含めて最大 15 バイト。		
7.8	assignedAuthor/ representedOrganization/addr	ファイル作成機関の所在地情報。	0..1	O
7.8.1	text()	「ファイル作成機関住所」に対応する住所を全角文字列で記録。郵便番号を含まず、空白を含めない。最大 80 バイト。	1..1	M
7.9	assignedAuthor/ representedOrganization/addr/ postalCode	ファイル作成機関の所在地郵便番号情報。	0..1	O
7.9.1	text()	「ファイル作成機関郵便番号」に対応する半角文字列。書式は、「###-####」([0-9]{3}-[0-9]{4})。ハイフンを含む)。8 バイト固定。	1..1	M

ファイル作成機関の XML サンプルを以下に示す。

```

<ClinicalDocument>
...
<!-- ファイル作成機関情報 -->
<author>
  <time value="20210402" />
  <assignedAuthor>
    <id nullFlavor="NI" />
    <representedOrganization>
      <id extension="1234" root="1.2.392.200119.6.101" />
      <name>あいうえお健康保険組合</name>
      <telecom value="tel:0312345678" />
      <addr>
        <postalCode>112-0000</postalCode>
        東京都千代田区大手町 1 - 2 - 3
      </addr>
    </representedOrganization>
  </assignedAuthor>
</author>
...
</ClinicalDocument>

```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 3.2.3.3 ファイル作成管理責任機関情報

特定健診実績報告（保険者→支払基金）仕様説明書の該当情報と同一。

### 3.2.3.4 受診券番号

本仕様では出現させない。

### 3.2.3.5 健診実施情報

特定健診実績報告（保険者→支払基金）仕様説明書の該当情報と同一。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

### 3.3 ボディ部

特定健診実績報告（保険者→支払基金）仕様説明書の該当情報と同一。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

#### 4. ボキャブラリ仕様

特定健診実績報告（保険者→支払基金）仕様説明書の該当情報と同一。

#### 5. OID 表

本文中で記載されている各種コードのコード体系コード（OID）は、別表 OID 一覧表を参照すること。

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

## 6. 「保険者から支払基金への実績報告用ファイル」を支払基金が加工して本仕様に準拠させるのに必要な加工箇所の例

この例はあくまで理解を助けるために提示するものであり、万一、ここでの例と本仕様説明書およびXMLスキーマとに相違がある場合には、後者を優先するものとする。

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!-- 2020.01.31 項目を充実して新しいサンプルを作成 -->
<ClinicalDocument xmlns="urn:h17-org:v3" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="urn:h17-org:v3 ../XSD/hc08_V08.xsd">
  <!-- ヘッダ情報記述部 -->
  <!--CDAのデフォルト-->
  <typeId root="2.16.840.1.113883.1.3" extension="POCD_HD000040" />
  <id nullFlavor="NI" />
  <!--報告区分コード -->
  <code code="10" codeSystem="1.2.392.200119.6.1001" />
  <!--文書発行日（西暦） -->
  <effectiveTime value="20211110" /> ☆保険者が本ファイルを作成した日付に上書き設定
  <confidentialityCode code="N" />
  <!--受診者情報-->
  <recordTarget>
    <patientRole>
      <!-- 保険者番号 -->
      <id extension="12000001" root="1.2.392.200119.6.101" />
      <!-- 被保険者証等記号 -->
      <id extension="あああ" root="1.2.392.200119.6.204" />
      <!-- 被保険者証等番号 -->
      <id extension="103" root="1.2.392.200119.6.205" />
      <!-- 被保険者証等枝番 -->
      <id extension="01" root="1.2.392.200119.6.211" />
      <id extension="123 . . ." root="1.2.392.200119.6.202" /> ☆整理用番号 1（実際は64桁）
追加
      <id extension="987 . . ." root="1.2.392.200119.6.203" /> ☆整理用番号 2（実際は64桁）
追加
      <id extension="567 . . ." root="1.2.392.200119.6.900" /> ☆整理用番号 3（実際は64桁）
追加
      <id extension="345 . . ." root="1.2.392.200119.6.18010" /> ☆整理用番号 4（実際は64桁）
追加
      <id extension="789 . . ." root="1.2.392.200119.6.18020" /> ☆整理用番号 5（実際は64桁）
追加
      <id extension="1" root="1.2.392.200119.6.206" /> ☆資格区分（1桁）
      <!--受診者 -->
      <addr>
        <postalCode>113-8655</postalCode>東京都文京区本郷7-3-1</addr>
      <patient>
        <name>タチカバズヨ</name>
        <!-- 性別 -->
        <administrativeGenderCode code="2" codeSystem="1.2.392.200119.6.1104" />

```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

```

    <!-- 生年月日 -->
    <birthTime value="19600203" />
  </patient>
</patientRole>
</recordTarget>
<!-- Author -->
<author>
  <!-- 作成日 -->
  <time value="20211010" />
  <assignedAuthor>
    <id nullFlavor="NI" />
    <representedOrganization>
      <!-- 作成機関のID番号 -->
      <id extension="1234" root="1.2.392.200119.6.101" />
      <!-- 作成機関名 -->
      <name>あいうえお健康保険組合</name>
      <telecom value="tel:0312345678" />
      <addr>
        <postalCode>112-0000</postalCode>
        東京都千代田区大手町 1 - 2 - 3
      </addr>
    </representedOrganization>
  </assignedAuthor>
</author>
<custodian>
  <assignedCustodian>
    <representedCustodianOrganization>
      <id nullFlavor="NI" />
    </representedCustodianOrganization>
  </assignedCustodian>
</custodian>
<participant typeCode="HLD">
  <!-- 受診券 -->
  <functionCode code="1" codeSystem="1.2.392.200119.6.208" />
  <time>
    <!-- 有効期限 -->
    <high value="20210331" />
  </time>
  <associatedEntity classCode="IDENT">
    <!-- 番号 -->
    <id extension="10111293841" root="1.2.392.200119.6.209.112000001" />
    <!-- 保険者情報 -->
    <scopingOrganization>
      <!-- 保険者番号 -->
      <id extension="12000001" root="1.2.392.200119.6.101" />
    </scopingOrganization>
  </associatedEntity>
</participant>

```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

```

<!--健診実施情報-->
<documentationOf>
  <serviceEvent>
    <!-- プログラムサービスコード -->
    <code code="010" codeSystem="1.2.392.200119.6.1002" />
    <!--実施日-->
    <effectiveTime value="20200401" />
    <performer typeCode="PRF">
      <assignedEntity>
        <id nullFlavor="N1" />
        <representedOrganization>
          <!--実施機関番号 -->
          <id extension="1323456789" root="1.2.392.200119.6.102" />
          <!-- 実施組織名 -->
          <name>東京健診センター</name>
        </representedOrganization>
      </assignedEntity>
    </performer>
  </serviceEvent>
</documentationOf>
<!-- 結果記述部 -->
<component>
  <structuredBody>
    <component>
      <section>
        <code code="01010" codeSystem="1.2.392.200119.6.1010" displayName="特定健診検査・問診
セクション" />
        <text />
        <entry>
          <observation classCode="OBS" moodCode="EVN">
            <code code="9N001000000000001" displayName="身長" />
            <value xsi:type="PQ" value="150.0" unit="cm" />
          </observation>
        </entry>
        :
        :
      </section>
    </component>
  </structuredBody>
</component>
</ClinicalDocument>

```

特定健診の電子的なデータ標準様式	Version: 1
特定健診情報ファイル（支払基金から国・国保から支払基金への報告用）仕様説明書	2020.03.31

## Ver1

本説明文書は、オンライン資格確認等システムを活用した特定健診情報等の保険者間の引継ぎ等の開始（2021年3月予定）に対応するため、厚生労働省保険局医療介護連携政策課医療費適正化対策推進室が作成しました。

また、「保険者による健診・保健指導等に関する検討会」の下に設置された「実務担当者による特定健診・特定保健指導に関するワーキンググループ」の構成員や、ここに記載していない多くの方々の献身的な貢献により検討された成果に基づいています。

なお、本文中に記載している通知の最新版については厚生労働省ホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161103.html> に掲載しておりますので、適宜読み替えて運用していただくようお願いいたします。